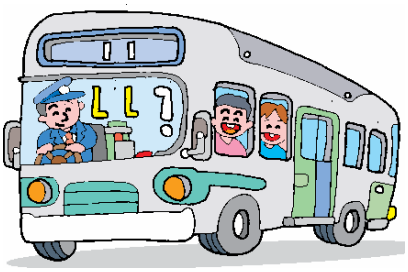
コラム

それは誤解から始まった！？
～学校と行政のコミュニケーションの大切さ～

中村 俊策　大阪府都市整備部交通道路室道路整備課

平成 14 年、大阪府で交通環境学習が「産声をあげた」際のエピソードです。私が大阪府鳳土木事務所に在籍中、ご縁により和泉市立緑ヶ丘小学校 5 年生 4 クラスの総合的な学習の時間で取り組んでいただくことになりました。内容は、交通ダイアリーやCO_2現況カルテの作成、家庭での話合いによる行動プランづくりなど盛りだくさんの内容を週に 2～3 コマ。大学の学生さんもチューターに入り、毎週二日は学校にて夜遅くまで授業内容の打合せを重ね､10 月から翌年の 3 月まで､ほぼ半年間にわたる長期の取り組みとなりました。

まもなく仕上げの成果発表会、という 3 月のある日のこと。打合せの席で先生が一言。『ああ、しんどかったわ。この半年間たいへんでした』。え？？『CO_2の計算が多くて教室から逃げ出した生徒も。親からのクレームも...』。お聞きすると「大学の重要な研究テーマであるからしっかり取り組むように」と指示があったので、途中で一言も「この内容では、しんどい」と言えなかったとのこと。

それならそうと言って頂ければ！毎週お会いしていたのに、なんというディス・コミュニケーション。深く反省！

このほろ苦く、しかし貴重な経験をもとに、さっそく翌年の夏、先生方と研究会を重ね、子供たちの負担を軽く、しかも喜んで取組んでもらえるよう、いわば「ショートプログラム化」を目指し、子供たちの息抜きの「公共交通見学会」やコラム授業の導入などカリキュラムや教材の改良・開発に取り組み、現在の「交通ゲーム」や「クルマ大集合」などが生れるきっかけとなりました。そして何より、先生方と我々サポーターの行政が本音で話し合うコミュニケーションの大切さを学んだ貴重な経験でした。